

財団だより

第105号

2005.3

多摩川



溪流釣り用の魚籠
五日市町郷土館蔵

事業年報特集号



多摩川八景 その④

Photo & Text : 遠藤 穎彦 (Hidehiko Endo)

■ 多摩大橋付近の河原 ■

多数の岩が、まるで川を泳いでいる牛の大群のように見えることから「牛群地形」と呼ばれる特異な河原風景が展開する。この辺りは、過去の洪水によって出来たものと言われ、千数百万年前の貝や魚の化石が出土されることもある。又、多摩川生態系保持空間ともなっており、絶滅が危惧されるオオタカやカワラノギクを始めとする動植物の生息地である。多摩大橋は、武州所沢と相州大山を結ぶ主要道・大山街道の「築地の渡し」跡にかけられたもので、側面が緑に塗られ、周りの自然によく溶け込んでいる。大橋から上流へ右岸を遡ると、160万年前の鯨の全身の化石が完全な形で見つかった公園、水族館もある多摩川上流（下水）処理場、昭島水辺の楽校も開かれるワンド型ビオトープなど、自然や地質などを楽しめる場所にこと欠かない。青梅線中神駅、八高線小宮駅から徒歩で約25分。

Contents 目次

巻頭言 多摩川の上流にて	2
都市に「春の小川」を	3
共に踏み出そう、青い地球をより青く!プロジェクト	4
みたか歩行者・自転車快適ルートマップ	5
八王子・心にうつる小さな風景	6
財団事業日誌	7
研究助成事業	9
主な環境関係財団の助成研究	14
多摩川関連の主な新聞記事	16
多摩川流域の主なNPO法人等	19
当財団の概要	20

巻頭言

多摩川の上流にて



財団法人 たましん地域文化財団
副館長 中澤富士雄

多摩川の上流、青梅市御岳1丁目1番地に私どもの分館であるたましん御岳美術館がある。青梅市の西の外れ、奥多摩町との境界にあり、目の前を多摩川が流れる。JR青梅線御嶽駅で下車し、川沿いに設えられた遊歩道を川上へ20分ほど歩いたところである。

多摩川の下流域とは異なり、これから水温む季節をむかえると遊歩道の沿道には野草が花開き、川には鱒がはね、水鳥が遊び、野鳥のさえずりが聞こえる。杉の樹林帯であるために花粉症の方がたにとっては厄介な地域ではあるが、水と緑の、自然を満喫できる遊歩道である。しかしまたこの自然は楽しむだけの存在にとどまらず、台風などでひとたび大雨が降れば、上流のダムから放水がなされ、荒れ狂う濁流となる。濁流はその前後で川の景色を一変させるほどで、その凄まじさが実感できる。澄んだ水の緩やかな流れとの落差は、自然との付き合い方の難しさを認識させる。まさに自然から学ぶべきことは多い。自然こそ人間の教科書なのである。

また青梅市内から当館にかけては美術館が集まった文化的な地域でもある。私どもの美術館からほんの少し奥に入った隣町には奥多摩町立せせらぎの里美術館、青梅市内には青梅市立美術館という公立施設があり、そして当館から東の、多摩川をはさんでミュージアムロードと名付けた遊歩道沿いには、日本画壇の巨匠・川合玉堂の作品を収蔵する玉堂美術館、4000点のコレクションを誇る澤乃井櫛かんざし美術館、旧宅を保存し資料を展示している吉川英治記念館、皇室・武家・公家・町屋の衣裳を展示する青梅きもの博物館などの私立文

化施設がある。5年ほど前にこの5つの私立館が集まり青梅ミュージアム協議会を設立し、「自然と文化と歴史に出会える四季の青梅」と呼びかけて、豊かな自然環境のなかで文化や歴史を再確認していただくべく活動を行なっている。また多摩川の水源地である奥多摩町は樹齢数百年という大木の宝庫で、その関係から江戸時代には修験道の聖地であった。その地域に居を構えて巨樹の会を主宰し、「巨樹は環境のバロメーター」と説いて環境保護を呼びかけている平岡忠夫さんもいる。この地域は古くから自然と文化と歴史を無視しては語れない土地とあってよいかと思う。

こうした土地に生まれ育った小澤酒造会長、櫛かんざし美術館館長でもある小澤恒夫さんが昨年第16回岩切章太郎賞を受賞した。同賞は観光宮崎の基礎を築き発展させ、「自然の美・人工の美・人情の美の調和」という観光哲学のもと地域固有の資源や魅力を活用し、観光振興、地域経済の発展、自然保護、文化の高揚に功績のあった岩切章太郎翁を顕彰したもので、小澤さんはこれまでも経営者として、さらに御岳観光協会会長として地域振興に大きく寄与していることから表彰されたのである。いやむしろ当地の自然と文化を代表して受賞したというべきかもしれない。氏は早速その副賞賞金を基金として、さらに地域振興、自然保護、文化の高揚に意を尽すべく新たな活動に着手した。

当地は日本でも珍しい自生の雪柳が見られることで知られている。活動の手始めとして、ここに小澤さんは紅い雪柳を移植し、紅白の雪柳という新たな魅力を付け加えることを企画した。自然はまた厳しく、多摩川はひとたび濁流と化せば、新たな植栽などはまったく無力に押し流されてしまうにちがいない。しかしこの試みが成功すれば、将来はそれが当地の「自然」として受け容れられるようになるだろう。そうなればそれは「人工」から「自然」へと昇華したということもできる。またそれは自然に対する人智、文化の活動であり、さらには新たな教科書作りの行動ということもできるだろう。これが成功するか否かは自然の判断に任さざるをえない。しかしこうした試みがこの地で行われていることを知っておきたいと思う。

特別寄稿

都市に「春の小川」を



東京農工大学教授
千賀 裕太郎

5月。東京の20万人都市、府中市に突如現れる「春の小川」。本宿用水は5月上旬に多摩川の水門が開き、田んぼの間の水路に水が引かれます。東京に田んぼがあると言っても信じられない人もいることでしょう。確かに、米価の低迷や農地転用等に伴い都市の水田は減少の一途をたどっていますが、東京では現在も綿々と水田が営まれ続けています。

2003年から3年にわたり、市民と大学がシンポジウムを共催しています。テーマは「水に親しむ環境づくり」。地方分権推進法により農業用水路が市に無償譲渡され、用水路の親水路整備計画が立ち上がったのを機に、身近な水辺—水路や水田など農業に結びついた水辺—のあり方をみんなで考えようと始まった2003年。やがてそれは都市農地の意味を問い、保全の方策を探る取り組みへと発展していきました。

それでは、都市農地の意味とは何でしょうか。農業の多面的機能が評価されていますが、特に水田は必ず用水路を伴い、水と深く結びついています。童謡に歌われている「春の小川」は農業用水路です。“すみれ”が咲く小川の岸は土でできています。“れんげ”は農家が緑肥として種をまいたものです。“さらさら”とした流れにはめだかや小鮒が群れ泳ぎます。水辺がもたらす景観、音、涼しさ、そこにすむたくさんの生き物、それらは都市住民にうるおいとやすらぎを与えてくれます。2004年、府中市が市制50周年を記念して行った都市景観賞において、市民公募により選ばれた50景では、自然と歴史・文化の景観—中でも、水田や用水路、農家の屋敷林などがつくりだす景観が高い支持を得ました。これらがまさに市民にとって原風景となっていることが分かります。農業は人と自然を養い、祭

りなどの伝統や文化も伝え、地域の人々の心をつなぐ役割すら果たしています。もし農地がなくなろうとしているならば、それは地域のコミュニティがなくなろうとしているということかもしれません。

そしてもう一つの意味。2004年は多くの自然災害に見舞われた年でした。人間は普段、人間以外の生き物には利用できない環境を作り出しています。コンクリートで固められ、冬場に枯れてしまう用水路では他の生き物はほとんど生きることができません。地下に水が浸透できない地面になり湧水量は減少していますが、人間には水道や深部から水を汲み上げるポンプがあります。しかし災害が起こった途端、状況は全く変わります。生き物の生息や移動を拒む深いコンクリート垂直壁の河川や用水路は、人間が降りて消火や雑用のための水を汲むことをも拒みます。そこを渡って逃げることもできません。上水道が断たれたときに人々の生命をつないでくれたのは、湧水であり、一年中水の流れる用水路の水でありました。このことは私たちに何を伝えてくれているのでしょうか。

地域における農的自然の状態は、言わば“地域のバロメーター”です。府中市内で「春の小川」が残る場所は、もう1箇所しかありません。市街化区域内の農地の存続は担保されておらず、相続税、後継者の問題など課題がたくさんあります。これまで農地を守り続けている農家、地域住民、行政の誰が欠けても都市農地を守ることはできません。今ならば、まだ都市の農地は残っています。その魅力と価値を伝え、これらを地域の財産として活かしたまちをつくる地道な取り組みを続けていかなければと思います。

(共同執筆者 皆川 明子 東京農工大学大学院)



小中高の連携と地域の教育資源を生かした 「総合的な学習の時間」 「共に踏み出そう、 青い地球をより青く！プロジェクト」



八王子市立橘原小学校
石塚 夕希子

本校は、八王子市立四谷中・東京都立八王子北高校と共に平成15・16年度文部科学省『総合的な学習の時間』モデル事業の指定を受け、二年間にわたり地域環境に働きかけ総合的な学習の時間の小中高カリキュラム連携の可能性を研究してきた。

浅川をフィールドとして

まず、地域の教育資源を生かすテーマから、三校にまたがって流れる浅川に焦点が当てられた。特に、本校は浅川までは徒歩2、3分のところにあり、子どもたちは登下校の際に浅川を見、休日や放課後にも川原に下りたり、近くの公園で遊ぶなど浅川とは切っても切れない程身近な環境になっているため、最高の学習教材であり、学習環境であった。

そこで、三校は浅川を共通の学習の対象とし、この取り組みを「共に踏み出そう、青い地球をより青く！プロジェクト」をテーマとし、どうしたら地域の自然環境との共生を図ることができるかを追究した。

カリキュラムの作成から

当初は、小中高の異校種においてどのような授業が共通理解され、連携することができるか苦労した。そこでまず、三校の合同研究日の設定、地域人材・施設の協力、児童生徒の発達段階に応じた学習内容、教師の支援体制などを明確にすることから始まった。異校種とはいえ変わらないものは、「総合的な学習の時間」としてのねらいや趣旨を実現するという目的のもとに展開するということである。各学校の取り組みを生かし、連携を充実したものとするために教師間の意見交換をくり返す中で、児童生徒の共通の課題が絞られてきた。それは、①浅川をきれいにしよう。②浅川沿いの生き物を調べよう。③浅川の水質を調べよう。④浅川の姿を調べよう。⑤浅川にあるものを使って遊ぼう。の五つであった。

児童の動機付け、興味を引かせるために

まず、大きく三つの段階に分け学習の計画を立てた。

①自己の課題設定のための共通体験

浅川の実地を知ろうと、全員で浅川へ行き、気づいたことをメモした。すると、「どんな植物が生えているのだろうか。」「水は汚れているといえるのだろうか。」「魚を捕まえない。」などの疑問や事柄が見つかった。川原のものを見たり、聞いたり、触ったり、味わったりすることを通し、次第に自分が一番興味をもち、もっと詳しく調べてみたいことが絞られてきた。

②取り組みたいテーマの決定とグループ追究

共通体験から自分のテーマを決定し、同好のメンバーとさらなる調査・研究をした。「魚を捕まえて、魚たたくを作ろう」「魚は何を食べているのかを調べるために、解剖をしよう。」「アスレチックを作り遊びたい。」「憩いの場にするために、ベンチを作ろう。」「化石を発掘しよう。」「薬品を使って水質を調査しよう。」など、子どもたちの興味は幅広く、それぞれの目的達成に向けての活動となった。

③中学生・高校生との課題追究

子どもたちは、共通体験・課題選択学習を経て、体験の面白さを感じ、浅川に対する意識が次第に変わってきた。と、同時に子どもたちは、自分たちでの活動に限界を感じたり、一層の深まりを調査に要求してきた。「なんとか解決したい」「もっといい方法はないのだろうか。」中高生との事前リーダー会議をスタートに、中学生・高校生と活動した「浅川プロジェクト」は、そういった自分たちでは解決できなかった疑問を共に解決できる、という児童にとっては心躍る活動となった。

一年間の児童の意識の変化は

児童にとっての一番の成果は、「自分たちが抱いていた自然や環境への関心・疑問や問題意識が、身近な環境である浅川と合致したこと」である。さらに、異年齢集団が、浅川という身近なものを通して、共通の視点を持つたという体験は今後の生き方に大きな財産となって生かされていくように思う。



多摩川散歩

■ みたか歩行者・自転車快適ルートマップ ■

まちの風・三鷹まちづくり21 共同代表 高屋 秀喜

きっかけは「みたか市民プラン21 会議」

三鷹市基本構想・基本計画の策定（H13）に際し、パートナーシップ協定に基づいて市民提案をまとめた「みたか市民プラン21 会議」の「都市基盤整備に関する分科会」メンバー有志で立ち上げたのが「まちの風」で「言いつ放しでなく、まちづくりのアクションを具体的に起こしたい。」というのが思いです。

第一着手として「マップ」づくり

マンション建設等で豊かな自然や昔の姿が失われている三鷹で、変化の良し悪しを体感するために「市民がまちを見て、考えるためのツール」が必要と考え、歩行者や自転車が主役の安全で快適な道を探す「マップ」づくりに着手しました。

徒歩や自転車で市内を隈なく回り、安全で快適に移動できる道を調べ、地域の方にアンケートをお願いし、三鷹らしい身近な生活情報を集めました。それをもとに「通ってみたい道」や「車は多いが、歩道の広い道」などの色分け、自転車が通れない場所、トイレが借りられるコンビニ、農産物の庭先販売所、季節の花や緑が美しい場所などを細かく載せ、「おすすめスポット」はカラー写真で紹介することにしました。若い女性デ

ザイナーがイラストやマークをデザインしてくれ、内容の精査作業を分担しましたが、それでもデザイン担当者の負担が大きく、着手から2年半過ぎた平成16年11月に完成しました。

販売経験がなく口コミと直接交渉だけでしたが、かわいいデザインに仕上がったこと、1部100円にしたこと、新聞等で紹介されたことで反響を呼び、さらにはメンバーの精力的な売込みで2,700部近くを販売し、なんとか改定版の作成費用を確保しました。

「マップ」の残部はわずかですが、下記の店で扱っています

◆風の駅（三鷹市下連雀1-17-1、ジブリ美術館の北、井の頭通り沿い）

◆雑多楽や（三鷹市下連雀3-33-13、三鷹産業プラザの北、赤鳥居通り沿い）TEL 0422-42-8777

「まち歩き」の実施とこれから

完成した「マップ」を使い平成16年11月21日（日）に「まち歩き」を行いました。GPS携帯でデータを集め、それをもとに「いいところランキン」や「グループごとの獲得ポイント競争」などゲーム性を取り入れた意見交換を、東京大学工学部の先生や学生さんたちの協力で実施できました。

「マップ」をつくる段階で少しずつ切り捨てていった思いを改訂版に盛り込みたいため、これからグレードアップのための検証作業に入ります。今度は改訂版に期待してください。



私と多摩川



「里山の四季」 ～八王子・心にうつる 小さな風景～

八王子在住
高橋 則男

2000年1月1日新しい千年紀がスタートしたその記念すべき年に定年退職した。

会社に出勤するための忙しい朝から解放されて、これからの人生自分が主役、趣味の世界へ一歩踏み出した。

山や丘陵に囲まれ今も残る豊かな自然、歴史のまちなみでもある八王子にカメラを向けてから二十年、雄大な自然風景とは程遠い自分の身近な風景を撮り続けています。

いつも見慣れている何でもない普通の風景、何気なく通り過ぎてしまう風景にもいろいろな表情や新しい発見もあります。移り行く季節の素晴らしい自然との出会いに思わずカメラを構える。

足元の小さな風景との出会いにも大きな感動があり、道端の野草たちも綺麗な花を咲かせて心むひとときです。朝露に濡れている青々とした田んぼのあぜ道、水滴がきらきら輝いて宝石のようです。靴もびしょぬれ、柔らかい土の感触が心地よく足に伝わってくる。真夏の陽光をいっぱいを受けて膨らみはじめた稲穂、黄金色に色づく実りの秋もすぐそこまで来ています。

このような風景が私たちの心に安らぎや勇気を与えてくれるのかも知れません。人と自然との共生は目に見えないところにあり、互いに関わって生活しています。里山には草や土の匂い、風の音や虫の鳴き声など

様々な表情があり楽しく何かを語りかけているようです。みどりいっぱい雑木林も近代的な建物や新興住宅などが建ち並び里山の風景が様変わりしていることも事実です。

多摩川の流域には小宮町付近とその上流の高月町、高月町は秋川と多摩川の合流地点で田んぼや畑のある里山の空間が広がっています。高度成長期時代には飛行機で農薬を散布したと聞いています。小さな生きものたちも絶滅の寸前にあつたのではないのでしょうか。

今は小さな生きものたちも少しずつ戻ってきている様子で虫など見かけるようです。稲穂が黄金色に染まるころ彼岸花があぜ道に彩りを添え、飛翔する赤トンボが青空によく似合っています。背景には滝山丘陵や加住丘陵などが配され、そのむかし北条氏照の居城であつた滝山城址があり、甲斐の武田信玄と壮烈な戦いを繰り広げたと伝えられています。その滝山城址からはあきる野市方面に向かって多摩川を遠望することができます。

西には高尾山や陣馬山などの山々が連なり、八王子の主流である浅川の水源となって多摩川に注いでいます。その浅川の上流は八王子市役所あたりで北浅川と南浅川に分かれて、そのむかしは水田耕作など盛んに行われていたと思われます。

新しい世紀の幕開けにあたり2001年3月に夢であつた写真展「四季光彩」を開催、退職後は出かける日々も多くなり撮り収めた写真も増えて、昨年11月には夕焼け小焼けふれあいの里に於いて第二回目の個展「里山の四季」を開催した。新開にも掲載され写真を通して何かを感じてほしいとの思いはありましたが、ご年配の方などから「生きる力を与えられた、生きる勇気をもたらした」など大きな反響があつた。

喜びと勇気と安らぎを与えてくれた「八王子の心にうつる小さな風景」に感謝です。



滝山城址からあきる野方面を望む



稲穂収穫期の農家

財団事業年報特集

1 事業日誌（2004年1月～2004年12月）

- 1月15日 平成16年度助成研究の公募締切り（応募件数45件）
- 1月29日 第349回常任理事会を午後3時から渋谷南平台東急本社で開催
—第47回理事会、第43回評議員会の開催について ほか—
- 2月24日 第350回常任理事会を午後4時から南平台東急本社で開催
—第46回定時選考委員会開催について ほか—
- 3月1日 財団だより“多摩川”第101号発行
- 3月9日 第46回定時選考委員会を午後1時より、渋谷地下鉄ビル内会議室で、
選考委員9名出席のもと開催 —新規研究13件（学術研究6件、一般研究7件）、継続
研究10件（学術研究7件、一般研究3件）をそれぞれ採択
- 3月18日 (社)東京ファッション協会・(財)日本ファッション協会より「日本生活文化大賞」
環境啓発賞を受賞
- 3月23日 第43回評議員会を午前10時より南平台東急本社にて開催
—平成16年度事業計画、収支予算の承認 ほか—
第47回理事会を午前11時より南平台東急本社にて開催
—平成16年度事業計画、収支予算の承認 ほか—
- 3月30日 第351回常任理事会を午後4時30分より、渋谷地下鉄ビルの財団で開催
—第8回多摩源流まつりへの協力について ほか—
- 4月21日 L T E R（長期生態研究）プロジェクト検討に先立ち、東京農工大学農学部附属のF M
多摩丘陵地（東京都八王子市堀之内在）を視察、踏査
- 4月22日 第352回常任理事会を午後3時30分より南平台東急本社で開催
—第48回理事会、第44回評議員会議案について ほか—
- 5月4日 小菅村主催「第18回多摩川源流まつり」後援
- 5月9日 (財)世田谷区スポーツ振興財団主催「第5回多摩川ウォーク」協賛
- 5月19日 第48回理事会を午後1時30分より、南平台東急本社で開催
第44回評議員会を午後2時30分より、南平台東急本社で開催
—平成15年度事業報告、収支決算の承認、第46回定時選考委員会採択研究の承認 ほか—
- 6月1日 財団だより“多摩川”第102号発行（本号より改訂版）
—特別寄稿「長期生態系観測で、多摩川流域から発信を」（東京農工大・小倉紀雄名誉教授）—
- 6月1日 環境学習副読本「多摩川へいこう」を10,000部印刷し、多摩川流域の小学校88校に
} 9,672部を贈呈
- 7月31日
- 6月24日 第353回常任理事会を午前10時30分から南平台東急本社で開催
—平成16年度助成金贈呈式について ほか—
- 6月26日 当財団の横田二郎会長が死去（享年81歳）

- 7月13日 平成16年度助成金贈呈式を、渋谷東急インで、正午から開催
—学術研究者6名、一般研究7名、選考委員など関係者約30名が出席—
- 7月14日 **臨時理事会・臨時評議員会を開催し新会長に清水 仁理事を選出**
- 7月21日 千葉大学大学院医学研究院主催市民講座「水の生命科学から考える環境・健康問題」
(会場：千葉県船橋市船橋市民文化創造館)を後援
- 7月27日 第354回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催
—6月の決算について ほか—
- 7月29日 **第10回助成研究ワークショップ「川の風景を読む—多摩川からの報告—」を午後1時より
青山の国連大学会議場で開催(コメンテーター：中村良夫 東京工大名誉教授、参加者96名)**
- 9月1日 財団だより“多摩川”第103号発行—特別寄稿Ⅰ「地下水の活用で清流の復活を」
(東京都環境局 加藤寛久氏)、特別寄稿Ⅱ「フランスが憲法を改正し、環境を基本的人権と
同等に」(東京工大 中村良夫名誉教授)
- 9月1日 (社)国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」から平成17年度の助成が承認さる
- 9月27日 第355回常任理事会を午後2時から南平台東急本社で開催
—特定公益増進法人の申請について、平成17年度の助成研究の公募について ほか—
- 10月1日 **研究助成成果報告書発行** 学術研究第32巻(9件収録・60部)、一般研究第25巻(6件収
録・100部)を印刷、製本し図書館、教育委員会等へ贈呈
- 10月27日 第356回常任理事会を午後3時から南平台東急本社で開催
—上半期決算、下半期収支見直し、平成16年度決算予想について ほか—
- 10月31日 昭島市市制50周年記念講演会「昭島の水から生命健康を考える」
(会場：昭島市役所市民ホール、同市水道部主催)後援
- 11月9日
{ (財)せたがやトラスト協会主催「せたがやトラストウィーク2004」後援
- 11月14日
- 11月15日 **経済産業大臣より「特定公益増進法人」の認可を受く**
- 11月17日 上流域、中流域に続き、多摩川河口域(六郷土手から大師橋下流まで)の現地を視察、踏査
(海辺づくり研究会から4名がご同行)
- 11月23日 (財)世田谷区スポーツ振興財団主催「第4回多摩川流域少年サッカー大会」協賛
- 11月23日 千葉大学大学院医学研究院主催市民講座「緑と水、そして健康を考える会」を後援
(会場：あきる野市自然休養村 山溪)
- 11月25日 第357回常任理事会を午前10時から南平台東急本社で開催
—10月分決算について ほか—
- 12月1日 財団だより“多摩川”第104号発行—特別寄稿「水そして生命・健康を考える」
(千葉大学大学院医学研究院 鈴木信夫教授)
- 12月20日 第358回常任理事会を午後3時から南平台東急本社で開催
—平成17年度事業計画(案)および収支予算(案)について ほか—

2 研究助成事業

当財団では、平成16年度研究助成金贈呈式を、7月13日(火)、渋谷の東急インで開催し、本年4月を開始月とする新規の助成研究13件に助成金を贈呈致しました。継続研究10件も承認されていますので、本年度は23件を助成していることとなります。ここに、全助成研究をご紹介します。(継続研究および10月に製本が完成し配布、贈呈された研究については課題と研究者名のみ掲載)

<新規助成研究>

学術研究

多摩川水系における落葉食河川底生動物の種多様性に及ぼす河川環境要因の影響解析



加賀谷 隆 (かがや たかし)
 東京大学 農学部 森林動物学教室 助手
 共同研究者
 奥田 青州 東京大学大学院 農学生命科学研究科 修士1年

近年の急速な河川環境の改変は、多くの生物群において種の減少を加速させている。種多様性の減少は、生態系の安定性の低下や物質循環などの生態系プロセスに影響を与えると考えられており、河川生物の種多様性を規定する要因を明らかにすることは、健全な河川生態系を維持する上で重要である。落葉リターの分解は、河川の植物網を支える上で重要なプロセスであり、これには水生昆虫類を中心とした、多数の落葉食底生動物種の破砕摂食が大きな役割を担っているが、これには、落葉食底生動物の種数や種構成が影響することが示されている。本研究では、多摩川水系において、環境条件の異なる多数の溪流において調査を行い、さらに環境条件を絞り込んだ集中調査を行うことで、落葉食底生動物の種数と種組成に影響を与える要因を特定し、多摩川水系における河畔を含めた河川環境の人為的改変が、落葉食底生動物の種多様性に与える影響の予測モデルを構築することを目的とする。

多摩川における生態系多様性の評価：寄生虫を指標とし、地理情報システムを活用した方法の開発



杉山 広 (すぎやま ひろむ)
 国立感染症研究所 寄生動物部 主任研究員
 共同研究者
 川中 正憲 国立感染症研究所 寄生動物部 室長
 森嶋 康之 国立感染症研究所 寄生動物部 研究員

河川において自然が十分に保全されていれば、そこに生存・繁殖する生物種は多様多彩になる。この生物種の多様性を評価するにあたり、寄生虫の利用を考えた。例えば肺吸虫と云う寄生虫は、一生を全うするのに3種類の異なる宿主動物(貝・カニ・哺乳類)を必要とする。つまり肺吸虫が検出できる地域では、3種類の動物群が総て生息していると推察できるのである。そこで本研究では、多摩川で生態系保持空間として策定された地区とそうでない地区とを比較しながら、種々の宿主動物を調べることで、我々の仮説「生物多様性が寄生虫の存在で評価できる」を検証する。また、寄生虫の感染状況と各種の地理情報データとに相関する環境要因を特定し、この環境要因の有無が生物多様性の新たな評価法になるかを検証する。このような研究活動を通じて、多摩川における自然環境の保全・回復に貢献したいと考えている。

多摩川水系に侵入した外来動物『フロリダヨコエビ』の分布・拡散の現状と生態系への影響予測



倉西 良一 (くらにし りょういち)
 千葉県立中央博物館 生態環境研究部
 環境科学 研究科 上席研究員

共同研究者
 佐竹 潔 国立環境研究所 研究官
 石綿 進一 神奈川県環境科学センター 専門研究員
 金田 彰二 日本工学院専門学校 教授
 平良 裕之 生物科学研究所 研究員
 清水 高男 淡水ベントス研究所 主席研究員

近年、多摩川水系で不思議なヨコエビが見つかるようになった。この不思議なヨコエビは、多摩川の二子橋の下など夏期には水温が30℃をこえ、BODも5mg/l前後のきれいなとはいえない所に沢山生息しているのである。形態を精査したところ、これまで日本では記録のなかったマミズヨコエビ科の *Crangonyx floridanus* [フロリダヨコエビ] であることが判明した。何らかの方法で侵入した外来動物であると考えられる。本種は、1990年代のはじめ東京の湧水などで見つかったが、最近では関東各地で報告が相次いでいる。

本研究では、多摩川水系を中心に関東の河川における本種の分布状況の調査を行うことを第一の目的とする。このことにより分布拡散の現況を把握する。次に、多摩川水系において新たに侵入したフロリダヨコエビにより、同じような生態的地位にある底生動物の構成がどのように変化したかについて、過去の資料と最新の現地データとの比較を行う。どのような種が、外来動物により深刻な影響を受けているのかを明らかにしたい。また飼育などにより、生理的なデータを収集し、河川生態系に及ぼす影響の予測を行いたい。

多摩川中流域における河川敷植生の復元と管理についての研究



一澤 麻子 (いちさわ あさこ)
 横浜植生研究会 会員

共同研究者
 長岡 聡子 横浜植生研究会 会員
 島瀬 頼子 (財)自然研究センター
 奥田 重俊 (株)建設環境研究所

多摩川河川敷では、礫河原の在来種および群落が減少し続けており、積極的な保全策を働きかけることが望まれている。多摩川中流域の永田地区において、国土交通省京浜河川事務所により礫河原を人工的に作るという実験的事業が行われ、我々は詳細な植生調査により、創出した河原では在来の河原植物の生育も見られるものの、外来種が優占したことを明らかにした。

今後、より自然状態に近い河原環境を創出していくためには、

造成河原の効果と課題を明らかにしなければならない。そのために、造成河原に成立する植生の立地環境条件との対応関係の解明、近隣地域の自然に形成された河原植生との比較を行う必要がある。また、外来種の激増といった問題を自然に解消するのは現状では難しく、河原植生を持続するためには人間による管理が必要な状況である。そのため我々は、造成河原に成立した植生の情報を数値地図化し、立地環境条件との対比、分析を行ったうえで、最終的には、メンテナンスフリーで維持できる自然の河原の再生に対する提案を行うことも目的に含め、研究を進めていきたい。

多摩川における早瀬の景観的特徴とその水理環境に関する研究



知花 武佳 (ちばな たけよし)

東京大学大学院 工学系研究科 助手

河川における早瀬というものは、その波立ちやせせらぎによって河川空間を利用する人々の目を惹きつけ、人々がその河川に対して抱くイメージを左右する重要な要素である。しかしながら、こうした早瀬は洪水による攪乱の度に更新され、動的に維持される空間であるため、局所的な工事で造成した場合、長期にわたり理想とする状態を維持するのは困難である。また、その早瀬景観というものの自体を構造的に解析した研究は少ない。そこで、どのような早瀬景観がどのような条件下で形成されるのかについて、地形をマクロな視点からミクロな視点まで階層的に解析することで把握する事を目指す。最終的には、上流から下流にかけての早瀬景観の変化、それに及ぼす人工構造物の影響を明らかにし、多摩川らしい早瀬の姿を提示したい。

多摩川水系飲用水に関する市民コーディネータ養成アカデミーの設立：生物作用水質モニターと水のヒト生命科学教育システムの構築



鈴木 信夫 (すずき のぶお)

千葉大学大学院 医学研究院 教授

共同研究者

喜多 和子 千葉大学大学院 医学研究院 講師

鈴木 敏和 千葉大学大学院 医学研究院 助手

唐田 清伸 千葉大学大学院 医学研究院 助手

菅谷 茂 千葉大学 医学部 技官

小崎 恵理 千葉大学 医学部 技術補佐員

長尾 明子 千葉大学 医学部 臨時事務員

私共は、多摩川の水や飲用水のヒトへの生物作用に関して、ヒト細胞に対する遺伝子毒性や細胞増殖阻害度を指標として調べています。特にヒト遺伝子の塩基配列保持(情報保持)に必要な個体レベルでの新規の生理機能を見出しており、この機能のレベルが飲料水により左右される可能性を研究しております。このような水の生命科学の研究は今後大いに発展させる必要があります。そこで、今回、多摩川水系の家庭水道水を採取する市民ボランティアを募集し、市民講座を開講しながら、上述の水の生物作用試験の公開実験を行います。1. ボランティア募集、2. 市民講座開設、3. 水採取と生物作用検討：採水、濃縮、各

測定項目の解析、4. 採血、血清分離、アポトーシス変異誘導の調節活性の解析、5. 多摩川水系地域や全国湧水地域などの生命科学ネットワークの開設、という手順です。市民講座はアカデミーとして定着させ、全国河川水生命科学のネットワーク作りを行う基盤とします。

一般研究

中央線沿線地域の雨水循環的活用可能性研究調査



黒岩 哲彦 (くろいわ あきひこ)

特定非営利活動法人グリーンネックレス 理事
共同研究者

土肥 英生 (財)都市防災研究所 研究員

細見 正明 東京農工大学 工学部 教授

野口由紀子 「武蔵野から」 編集代表

石田 幸彦 八王子市役所

池田 敦子 NPO法人 ひと・まち社 代表理事

小谷 俊哉 (株)都市計画設計研究所 研究員

多摩地域の中央部を東西に横断する中央線沿線は、多摩川流域の集水域であり、平成13年の東京都環境確保条例に基づいて、雨水涵養を積極的に進めるべき地域として位置づけられています。このような背景を踏まえ、特定非営利活動法人グリーンネックレスでは、天の恵みである雨水を『地域互助水』として使って、台地に還す、雨水循環的活用を、沿線市民、企業、教育研究機関、行政の協働による新しい環境共生の仕組みを作る機会と捉え、雨水を活用し、それらの仕組みづくりに役立ち、雨水活用施設の維持・管理を市民事業として行う『市民参加型雨水活用システム』の研究を行い、その具体化を進めてまいりました。

調査では、1月末に1号を設置した「雨だるま」を活用した雨水活用システムのモニタリングを通じて、雨水活用の現状を把握し、雨水の循環的活用ポテンシャルを有する地区を抽出し、中央線沿線地域で、市民参加によりどのような雨水活用システムが展開し得るのか、モデル研究を行い発表します。

東京都の湧水等に出現する地下水生生物の調査



篠田 授樹 (しのだ さつき)

地域自然財産研究所 代表

共同研究者

村田 菜菜 (株)背景計画研究所 研究員

服部 睦子 (株)生態計画研究所 研究員

湧水域には、しばしば特徴的な生物が見出される。ときには、地表水生の種に混じり、地下水生生物が得られることもある。私たちが2000年に世田谷区で得たヨコエビ *Pseudocrangonyx* 属の一種は未記載種の可能性が指摘された。また、2003年にミズムシの一種 *Nipponasellus hubrichti* など3種の地下水生種を得た国分寺市の湧水は、マンション建設により環境への影響が心配されている。生物学的にも、またその生息環境の保全のためにも、課題の多い分野である。

本研究では、特に湧水域に出現する地下水生生物に着目し、彼らが見出される条件などを調べることで、とらえにくい地下水環境を知る手掛かりを得ようとするものである。湧水域に出現する地下水生生物が、見えない世界のメッセンジャーであり、私たちがそのメッセージを受け取ることができるはずは、地下水・湧水の保全に役立つのではないかと考えている。

多摩川中流のかつての田園地域における希少植物の生育確認調査



星野 順子 (ほしの じゅんこ)
府中の植物を記録する会 世話人

共同研究者
星野 義延 東京農工大学 農学部 助教授
浅山明日香 (株)緑生研
市川 明子 みずとみどり研究会
田中 正仁 府中かんきょう市民の会
田中香代子 府中野鳥クラブ
山田 紀生 府中市民

東京の郊外として田畑や雑木林などに恵まれた多摩川中流域であったが、近年の開発によりその面積は急激に減少し、このような田園環境を主な生育地とする植物も著しく減少、全国レベルではさほど減少してはなくても、多摩川流域では絶滅の危機に瀕している植物達も多いと思われる。本調査では多摩川中流域の府中市、国立市、調布市などで現地調査を行い、それを過去のデータと比較しながら、多摩川中流域ではどのような植物種が絶滅の危機に瀕し希少になっているのか、その現況を把握し、行政区を超えた多摩川流域レベルでの希少植物保全のための基礎的資料を提供することを目的とする。

また同時に、市民や学生たちに広く参加を呼びかけ、その場で調査、観察したことの「証人」となってもらい、多摩川中流域における身近な自然環境の現況と重要性について考えてもらう機会とする。

さらに、記録された植物の分布資料はデジタル化し、誰でも利用可能な状態で公表、逐次地域住民に提供し、自然の現況の速やかな情報提供を図る。

多摩川中流域の水環境を題材としたプログラム開発と市民による学校支援体制システムの研究



杉山 典子 (すぎやま のりこ)
調布市環境学習サポーター
共同研究者 北谷里香子・飯島 伸一
山室 一樹・中島 忍
(調布市環境学習サポーターグループ)

先日、市内の小学校教員で作る「環境部会」のメンバーと多摩川へ出かけた。「総合的な学習の時間」や「生活科」で、多摩川を使ってどんな授業ができるか調べるのだが、一緒に歩いてアドバイスが欲しいとの依頼を受けて出かけたのだ。学校から多摩川まで、子どもたちを連れて行ける距離にある学校は7校もあり、支流の野川も川辺に建つ学校もありこちらも数校ある。調布市は環境学習の素材に恵まれているのだ。しかし先生方は悩んでいる。目の前に多摩川や野川などすばらしい自然環境素材があっても、それをどう使うか、専門的な知識も無いしアイデアもなかなか浮かんでこない。そこで私たちが行っている『環境学習サポーター』に助けを求めることになる。

私たちはこのような現状から、多摩川や野川などの水環境を題材に先生方が授業で使え、また地域で環境学習ボランティアを行っている人たちも使用できるプログラムがあればいいのではないかと考えた。先生方の協力を頂きながら実用的なプログラムづくりを進めていきたい。それと同時に私たちが行っている環境学習支援活動を今後市内全域に広げるにはどうしたらいいか、自分たちの活動を通して考えていきたい。

多摩川における地区河川環境モニタリング手法とその運用に係る人材育成に関する研究



横山 十四男 (よこやま としお)
多摩川流域リバーミュージアム検討協議会 代表
共同研究者 辻野五郎丸・山道 省三
三島 次郎・内田 哲夫
(多摩川流域リバーミュージアム検討協議会 運営委員)

近年、市民環境科学的な視点から、市民参加型の自然環境調査の重要性が社会的に認知されるようになってきているが、それを長期的に実践し、成功している事例はまだ少ない状況である。河川特性を理解するためには、経時的に大きく変動する河川特有の環境変化を捉えることが重要であり、そのためには長期的に川をモニタリングし、データを蓄積・解析する必要がある。このためには、地先の市民と研究者などが協働でモニタリング調査を実施することが重要であり、併せて、調査体制や調査方法、データの精度・頻度の検討の他、それを担う人材、長期的な活動資金の確保などを検討していかなければならない。本研究では、多摩川のある河川区間にモニタリング地区を設定し、多摩川で活動している市民団体と協働しながら、市民参加型河川環境モニタリング調査を実践しながら、河川環境モニタリングのための人材の育成とその仕組みづくりの手法を研究しようとするものである。

武蔵野台地南部の水利用・水配分に関する教材化のための基礎研究



小坂 克信 (こさか かつのぶ)
鳴門教育大学大学院 修士課程

世界的に見て水資源は偏在し、その利用や配分には問題があり、水で苦労している人々がいる。その人々への理解を深めるためには、学校現場において、自分たちの地域でも水道敷設以前に、水を利用するにあたって苦労していたことを学ばせる必要がある。

武蔵野台地南部において、水道が導入されたのは昭和30年代の所が多い。それ以前は井戸や玉川上水の分水に生活用水や飲料水などを依存していた。その利用や配分にあたっては、現在の水道のように、いつでも大量に活用できたわけではなく、苦労してきた。特に、水の配分については、次の4点が考えられる。

- ①玉川上水と多摩川を利用している村々との関係
- ②同じ玉川上水でも、武蔵野台地の村々(上流)と江戸市中(下流)との関係
- ③かつて玉川上水には約30の分水があったが、この分水どうしの関係
- ④同じ分水内での水利用・水配分の関係

以上の視点をもとに、台地という水の乏しい地域で人々は水をどのように利用・配分してきたのか、またどのような苦労・工夫してきたのか、教材化という前提で調査したい。

多摩川源流域における狩猟文化史に関する研究



井村 礼恵 (いむら ひろえ)

東京農工大学連合大学院 博士課程
東京学芸大学 環境教育実践施設
共同研究員

多摩川源流域の水涵養林では近年、シカの食害(山野草、樹皮等)が増加し、さらには源流域の山村で行われている耕作地への害も深刻である。そのため、水涵養林の管理および地域耕作物の保護のために行われる有害駆除、狩猟の果たす役割は大きいと言える。

現在、小菅村には猟師が40人ほどおり、代々、技術や知恵を引き継いでいる。彼らは「森の番人」としての自負を持ち活動している。しかし、そのような生活文化としての狩猟はあまり評価されておらず、後継者も不足している。

本調査では、昭和初期かの食糧難の時代に食べる糧として、切実に生活を営むために行われてきた狩猟から現在の狩猟に到る文化史について調査を行う。また、地域生活の中で、獲物がどのように食され、利用されてきたのか明らかにする。

昭和初期の狩猟やその生活とのかかわりを体験してきた世代からの聞き取り調査は、彼らの年齢から考えて、緊急を要している。その技術や知恵を再評価し、次世代に伝えたい。

<継続助成研究>

学術研究

多摩川の水質環境の変化に対応した新たな微生物・化学物質指標の挙動と指標性評価

小堀 洋美 (こぼり ひろみ)

武蔵工業大学 環境情報学部 助教授

多摩川および東京湾から外洋域における難分解性有機汚染物質の分布と運命予測

藤原 麒多夫 (ふじわら きたお)

東京薬科大学 生命科学部 教授

多摩川水系の貝類からみたクリプトスポリジウム汚染実態と感染防止対策に関する調査・実験研究

笹原 武志 (ささはら たけし)

北里大学大学院 医療系研究科環境感染学講師

多摩川水系の底質におけるポリクロロジベンゾチオフェンの分布及びその残留性の評価

中井 智司 (なかい ともし)

東京農工大学 工学部 助手

多摩川水系における底生動物と水文・水理特性の影響に関する研究

土屋 十圀 (つちや みつくに)

前橋工科大学大学院 教授

多摩川の河川敷環境がコリドーとして山間部と市街地に孤立したアカネズミ固体群をつないでいる可能性に関する保全遺伝生態学的研究

小原 嘉明 (おばら よしあき)

東京農工大学 農学部 教授

テフロクロロジーを用いた多摩川流域における鮮新—更新世の古環境復元

田村 糸子 (たむら いとこ)

東京都立永山高等学校 教諭

一般研究

森林生態系における動物の植物の種子散布過程に果す役割に関する研究—主に中、大型哺乳類を中心とした他の生物種との生物間相互作用について

小池 伸介 (こいけ しんすけ)

(財)日本生態系協会 生態研究センター 研究員

多摩川流域の都市公園におけるトンボ相に関する調査

山内 唯志 (やまうち ただし)

戸山生物研究会 代表

浅川産ハチオウジゾウを使った体験学習のための基礎的研究と実践

馬場 勝良 (ばば かつよし)

慶應義塾幼稚舎 教諭

—研究助成成果報告書収録の研究—

学術研究第32巻9件および一般研究第25巻6件の研究助成成果報告書が完成し、10月1日から多摩川流域の図書館や教育委員会等に贈呈いたしましたので併せて各巻収録の課題と研究者名をご紹介します。

学術研究

多摩川水系における水質の着色成分の状況と除去対策の検討

鈴木 昌治 (すずき まさはる)

東京農業大学 醸造科学科 教授

多摩川中・下流部における大縮刷地図表現による古代景観の復元的研究

大石 耐山 (おおいし たいざん)

日本開発研究所 代表

多摩川河川敷におけるタコノアシの現況、生育特性、保全対策について

瀬戸口 浩彰 (せとぐち ひろあき)

東京大学 総合人間学部 助教授

多摩川におけるエビ・カニ類の遡上に配慮した魚道の研究

安田 陽一 (やすだ よういち)

日本大学 理工学部 助教授

多摩川源流域におけるハナバチを中心とした生物間相互作用の解明

樋口 広芳 (ひぐち ひろよし)

東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授

多摩川河川敷の河跡地における植物群落の生育立地と多様性

星野 義延 (ほしの よしのぶ)

東京農工大学 農学部 助教授

多摩川流域での窒素飽和の実態解明：その分布と解析

楊 宗興 (よう むねおき)
東京農工大学 農学部 教授

GISを用いた多摩川・鶴見川流域における水環境モデルの構築

原 美登里 (はら みどり)
東京大学 空間情報科学センター 客員研究員

GISを用いた流域分類と流出現象のモデル化に関する研究—多摩川流域丘陵地への適用—

小口 高 (おぐち たかし)
東京大学 空間情報科学センター 助教授

多摩川の自然を生かした教材化の研究—小学校『総合的な学習の時間』を通して—

千田 文子 (ちだ ふみこ)
府中市立四谷小学校 教頭

カワラノギクの保護・育成のための実践的調査研究

山田 半三郎 (やまだ はんざぶろう)
はむら自然友の会

多摩川流域におけるムササビの環境選択に関する研究

岡崎 弘幸 (おかざき ひろゆき)
東京都立久留米高等学校 教諭

『水みちマップ』をつくるための調査研究と井戸にみる多摩市の昔の暮らし

森岡 淳子 (もりおか じゅんこ)
生活者の会 代表

一般研究

多摩川流域と他地域の古井戸についての比較研究

角田清美 (すみだ きよみ)
東京都立北多摩高等学校 教諭

用水を総合的な学習に生かす—日野の用水を例として—

小坂 克信 (こさか かつのぶ)
八王子市立第八小学校 教諭

3 第10回助成研究ワークショップ

比較的発表の場の少ない一般助成研究の成果発表の場をつくり、同時に、時宜を得た題材を取上げることによって、発表者と参加者が一緒になって勉強する機会を提供するものとして、本年も7月29日に、10回目となるワークショップを開催いたしました。お申し込みは多数ございましたが、会場の関係で100名の方にお返事を差上げ、最終的には96名のご参加を得ての開催でした。

景観法の改正が6月に国会で可決され、12月からは新法が施行されましたが、世の中のこの流れに沿い、多摩川とそれを取巻く環境はどうなっており、その問題点は何なのかを皆で議論し、多摩川のあるべき姿—景観を模索することになりました。経過、発表や議論の内容については本誌12月号でご報告済みですので、以下には、ワークショップの概要のみをご紹介します。

テーマ： 川の風景を読む — 多摩川からの報告

13:00	開会挨拶	とうきゅう環境浄化財団 理事長 五島 哲
13:15	報告 1	「多摩川中流域の府中用水に関する調査研究」 1997年～2000年助成 聖徳大学非常勤講師 島村 勇二
13:45	報告 2	「多摩川源流部の淵・滝・沢・尾根等の地名とその由来に関する調査研究」 1997年～1999年、2000年～2002年 2002年～2004年助成 多摩川源流研究所 所長 中村 文明
14:15	報告 3	「水みちマップ作成の為の調査研究」 1988年～1993年助成 「野川流域における湧水保全モデルの開発に関する計画論的研究」 2003年～2004年助成 水みち研究会代表 神谷 博
14:45	休憩	(15分)
15:00	総合討論	コメンテーター 東京工業大学名誉教授 中村 良夫 コーディネーター 当財団常務理事 長井 弘道
16:25	閉会	

4 主な環境関係財団による河川、湧水、水循環などに関わる最近の助成研究一覧

(2001年～2004年)

国内の主な環境財団（独立行政法人、社団法人、公益信託等を含む）が助成（活動助成を含む）した研究課題の中から、水源（林）、里山、湧水、地下水、水循環、用水などに関わるものを選んで、取りまとめました。各法人名は

「(財) 公益法人協会 (<http://www.kohokyo.or.jp/>)」

「(財) 助成財団センター (<http://www.jfc.or.jp/>)」

「埼玉県環境防災部 (<http://www.pref.saitama.jp/A09/BB00/partner/knp/josei.html>)」

のホームページより検索しました。また、その各法人の2005年1月時点でのホームページに公開されている中で、多摩川とその流域を中心に首都圏の主要な河川の環境保全のための調査や研究に携わる方々に参考となると思われるものを、当財団で任意に選択したものです。

研究課題	研究者	所属	研究年度	助成法人
環境流量における流量変動の指標と望ましい放流方式の提案	玉井 信行	東京大学大学院工学系研究科	2001	河川環境管理財団
甲府盆地における河川水と地下水の相互交換に関する研究	竹内 邦良	山梨大学工学部	2001	河川環境管理財団
湧水の環境構造と生物多様性から考えるビオトープ	倉西 良一	千葉県立中央博物館	2001	河川環境管理財団
河川・溪流の環境整備のための地域住民の参加方法に関する研究	大石 哲	山梨大学工学部	2001	河川環境管理財団
河川の源流域における自然と人間との交流活動	小林 満男	川の水源に登るサークル 東京都	2001	河川環境管理財団
2003年世界水フォーラムに向けての流域水循環システム、流域治水の啓発活動	高橋 裕	流域の水循環型社会をすすめる会 東京都	2001	河川環境管理財団
多摩川源流・中下流交流及び全国源流ネットワーク事業	中村 文明	多摩川源流研究所 山梨県	2001	河川環境管理財団
持続可能な森林経営と排出権取引 —環境付加価値の創造と会計問題—	村井 秀樹	日本大学商学部	2003	地球環境財団
緑地、特に環境保全林や植栽林による二酸化炭素固定の定量化および生物多様性回復のメカニズムに関する研究	藤原 一繪	横浜国立大学	2003	鉄鋼業環境保全技術開発基金
環境用水創出と管理の経済的手法	木下 幸雄	東京大学大学院農学生命科学研究科	2004	昭和シェル石油環境研究助成財団
持続可能な農業生産と環境保全の両立を目指した流域管理デザイン	森島 濟	江戸川大学 社会学部 環境デザイン学科	2003	クリタ・水・環境科学振興財団
森林が沿岸環境に及ぼす評価手法の作成	(社) 海と渚環境美化推進機構		2004	環境再生保全機構
日本の代表的な湧水湿地の現状と保全方策の提言	国際湿地保全連合日本委員会		2004	環境再生保全機構
地域住民参加による集水域管理手法の開発	(社) 自然資源保全協会		2004	環境再生保全機構

研究課題	所属	研究年度	助成法人
水資源に関わる環境問題動向会議	(財) 地球・人間環境フォーラム	2004	環境再生保全機構
「日本の水をきれいに～小中学生活動の支援、指導手引き」の作成・提供	(社) 日本の水をきれいにする会	2004	環境再生保全機構
地球環境保全のためのNPO・市民による持続可能な森林保全・整備活動ガイドラインの作成事業	(特定) 森づくりフォーラム	2004	環境再生保全機構
伝統的な里山の技術を生かした、里山保全プログラムの開発	(特定) よこはま里山研究所	2004	環境再生保全機構
「日本の水をきれいに～市民活動の手引」の作成・提供	(社) 日本の水をきれいにする会	2003	環境再生保全機構
自然農法を取り入れた里山保全活動展開	自然学園・太陽国際村	2002	環境再生保全機構
地域住民参加による集水域管理手法の開発	自然資源保全協会	2002	環境再生保全機構
全国山岳水質調査	日本トイレ協会	2002	環境再生保全機構
住宅街にビオトープの森づくり事業	国分寺市にふるさとをつくる会	2004	国土緑化推進機構
水源地域の資源を活用した山村地域活性化調査	(財) 水利科学研究所	2004	国土緑化推進機構
日野市の中心部にある緑地保全地域における雑木林の保全と自然体験の出来る緑地づくり	東豊田緑湧会	2004	セブンイレブンみどりの基金
青梅永山北部丘陵の保全を訴える「里山展」開催	青梅の自然を考えるネットワーク	2004	セブンイレブンみどりの基金
生田緑地における、下草刈りや除伐・間伐などを通じた里山保全活動	生田緑地の雑木林を育てる会	2003	セブンイレブンみどりの基金
FSC(森林管理協議会)の精神に沿い、新しい森林創生事業を創出する事業費を支援	特定非営利活動法人 緑のダム北相模	2003	セブンイレブンみどりの基金
荒廃森林の維持・管理・保全などの森林再生活動	さがみ湖・森づくりの会	2002	セブンイレブンみどりの基金
八王子大谷緑地保全地域における緑地保全管理事業	八大緑遊会	2002	セブンイレブンみどりの基金
鎌倉市今泉における、湧水復活へ向けての環境林を創る「人工林レスキュー作戦(広葉樹林への回復)」の実施	TEAM FOREST FREAK	2002	セブンイレブンみどりの基金
住宅街に残す野川源流のX山保全活動	日吉町町内会(東京)	2004	日野自動車グリーンファンド
野津田公園一里山の保全・活用・人との交流	野津田・雑木林の会(東京)	2004	日野自動車グリーンファンド
町田の里山保全における植生調査および体験	特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会	2001	アムウェイ・ネーチャーセンター環境基金
ボランティアによる雑木林の管理活動を通じ、地域の農業生産活動との資源循環について理解し、雑木林の重要性と今後のあり方を考えていく	トトロの里で耕し隊	2002	TaKaRa ハーモニストファンド

掲載法人のURL並びに今回掲載はしていませんが環境に関する助成（活動助成含む）法人をご紹介します。

環境に関する助成（活動助成含む）法人名（掲載法人）	U R L
（財）河川環境管理財団	http://www.kasen.or.jp/
（財）地球環境財団	http://earthian.org/foundation/
（財）鉄鋼業環境保全技術開発基金	http://www8.ocn.ne.jp/~sept/
（財）昭和シェル石油環境研究助成財団	http://www.showa-shell.co.jp/society/philanthropy/foundation/
（財）クリタ・水・環境科学振興財団	http://www.kwef.or.jp/
（独立行政法人）環境再生保全機構	http://www.erca.go.jp/
（社）国土緑化推進機構	http://www.green.or.jp/
セブン・イレブンみどりの基金	http://www.7midori.org/midori/
（財）日野自動車グリーンファンド	http://www.hino.co.jp/j/corporate/newsrelease/pressrelease/detail.php?id=33
アムウェイ・ネーチャーセンター環境基金	http://www.nature-center.org/fund.html
（公益信託）TaKaRa ハーモニストファンド	http://www.takarashuzo.co.jp/
（未掲載法人）	
（財）イオン環境財団	http://www.aeon.info/ef/
（財）自然保護助成基金	http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~pronat/
（財）都市緑化基金	http://www.urban-green.or.jp/
（財）長尾自然環境財団	http://www.jwrc.or.jp/NEF/
（財）損保ジャパン環境財団	http://www.sjef.org/
（財）日立環境財団	http://www.hitachi.co.jp/Int/skk/hsk15000.html
（財）サイサン環境保全基金	http://www.h2.dion.ne.jp/~saisanec/
（財）日本科学協会	http://www.jss.or.jp/about/index.html
（財）日本財団	http://www.nippon-foundation.or.jp/
（財）トヨタ財団	http://www.toyotafound.or.jp/
（財）リバーフロント整備センター	http://www.rfc.or.jp/
（財）ハウジングアンドコミュニティ財団	http://www.hc-zaidan.or.jp/topmenu.html
（財）日本生命財団	http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/
WWF・日興グリーンインベスターズ基金	http://www.wwf.or.jp/join/onemore/4_4_2greeninvesters.htm
（社）日本旅行業協会 JATA 環境基金	http://www.jata-net.or.jp/osusume/eco/
日本経団連自然保護協議会	http://www.keidanren.or.jp/kncf/
（公益信託）富士フィルム・グリーンファンド	http://www.fujifilm.co.jp/corporate/environment/socialcontribution/greenfund/
（公益信託）むさしの緑の基金	http://www.musashinobank.co.jp/ecology/

順不同

5 2004年の多摩川関連の主な新聞記事

- | | | |
|-------|-----|---|
| 1月 4日 | 神奈川 | 里山の魅力を知ってほしいと横浜の里山情報ステーションを期間限定でみなとみらいに開設 |
| 6日 | 朝 日 | 元松原村長らがかつての地場産業、炭焼き復活を目指し「一村逸品」社を設立 |
| 7日 | 工 業 | 国交省が全国669の水辺施設の通信簿を作成—「優」は僅かに5ヶ所 |
| 8日 | 讀 賣 | 里山こそ多様な命とのふれあいの場—日野の矢島稔さん |
| 9日 | 工 業 | 国交省が都県から東京湾への汚濁物質流入量の目標値を見直しへ |
| 15日 | 讀 賣 | 奥多摩町の奨励事業で、間伐材のスギとヒノキを初出荷（24日 朝日） |
| 18日 | 神奈川 | 景観法案の全容が判明—自治体が主体的に里山や棚田などの景観の保全へ |
| 21日 | 朝 日 | 多摩川の原因風景「カワラノギク」を復活へ—はむら自然友の会 |
| 23日 | 産 経 | 水産庁が「江戸前」復活を目指し、東京湾の再生に乗り出す |
| 24日 | 讀 賣 | 東京湾内の浅瀬・干潟「三番瀬」の再生計画案が完成、千葉県知事へ提出さる |
| 24日 | 讀 賣 | 野鳥憩う都会のオアシス—谷津干潟は今や習志野市のシンボル |
| 29日 | 讀 賣 | 多分野の専門家が多摩川の今後を一冊の本に—「水のこころ誰に語らん」 |
| 2月 7日 | 讀 賣 | 多摩川源流自然再生協議会を設立—「自然の守り人」を募集 |
| 15日 | 東 京 | 玉川上水堤の名勝小金井桜がピンチ—10年で95本が枯死、消滅 |
| 19日 | 讀 賣 | 日野市の「黒川湧水を生かす会」がワサビ1,200本を植え付け |
| 24日 | 讀 賣 | 日野市の富士電機工場敷地から基準値の44倍を超える鉛などを検出 |
| 26日 | 神奈川 | 県内の河川調査で判明—外来種の底生動物の分布が更に拡大 |
| 27日 | 毎 日 | 朝霞浄水場で新設した屋根に太陽光発電パネルを設置—光を生かし、水を守る |
| 28日 | 讀 賣 | 多摩川源流プロジェクト委員会が森林再生提言を完成し、答申 |

3月 1日	産 経	スーパー堤防工事を機に大田区下丸子のガス橋の上・下流1キロの桜並木を桜のトンネルに
2日	産 経	都水道局が高度浄水処理化に併せ、配水管や貯水槽も見直しへ
5日	朝 日	昭島市が市制50周年を記念し、奥多摩の民有林で水源の山造りに取組む
8日	毎 日	干潟減少のツケ—東京湾での漁獲高激減を受け、干潟、浅瀬の復活の試みへ
8日	東 京	ふたされた都市河川を復活へ—世界都市河川ルネッサンスフォーラムが閉幕
11日	神奈川	川崎市が経済の活性化と雇用創出を目指し多摩川利用計画案の検討へ
12日	毎 日	多摩川のアユの古里は羽田沖—都水産試験場が調査で明らかに
14日	讀 賣	都内唯一の自然史博物館の都高尾自然科学博物館が今月いっぱい閉館へ
16日	東 京	圏央道工事の影響か—高尾山の水位低下や岩の崩落が多発
20日	朝 日	多摩川水系水質監視連絡協議会が調査—多摩川の水質改善続く
25日	朝 日	羽村の市水道局に高度処理施設が完成し、通水式
30日	神奈川	川崎市が観光屋形船運行—大師大開帳時(5月1日～末日)に多摩川～つばさ橋間で
4月 1日	讀 賣	日野市とNPOが協定締結—市内唯一の「倉沢里山」の保全で
3日	毎 日	清瀬市が雑木林保存のために「みどり債」を1億円発行へ
6日	日 経	多摩川で生まれたアユは羽田沖、お台場沖で育つ—稚魚調査で判明
13日	毎 日	調布市菊野台の野川沿い住宅地の東京電力社員寮跡地からPCBを検出
13日	朝 日	放流魚への食害のあるカワウの捕獲調査が秋川で始まる
15日	神奈川	首都圏の大自然・川崎市生田緑地(約180ha)の将来像を策定し、市に報告
18日	毎 日	かつての美しさをとり戻せ—渋谷川で「春の小川まつり」を開催
20日	讀 賣	「ムツゴロウ動物王国」のあきる野市への移転を承認
22日	神奈川	圏央道建設に伴い、日本で最大のウラジロガシの巨木の保全作業が始まる
23日	毎 日	多摩川の稚アユの遡上がピークに
25日	朝 日	府中市、都、国が協力し「馬場大門ケヤキ並木」を保全
27日	朝 日	青梅市の日本ケミコン工場跡地から高濃度の化学物質を検出
5月 11日	讀 賣	多摩さくら百年物語フォーラムが発足—多摩川を再生し、大地と人の心に花を
19日	毎 日	東村山市の空堀川に清流が戻る—アユの姿が見られるまでに
23日	朝 日	武蔵野市が玉川上水コースなど4コースの散策マップを完成
26日	朝 日	多摩市の大栗川などでコイヘルペスウイルス症感染のコイを確認
27日	朝 日	国分寺市の西恋ヶ窪緑地で絶滅危惧種のキンランなどの草花の盗掘が相次ぐ
29日	毎 日	小笠原諸島や高尾山などで自然保護に取り組む都レンジャーに6名が合格
31日	讀 賣	多摩川、浅川で新緑と水辺の散策を楽しむ—みずウオークに1,241人が参加
6月 3日	朝 日	立川市富士見町を流れる昭和用水にホタルが舞い戻る
4日	毎 日	地元の地下水のペットボトル「水・好き」を武蔵野市が期間限定で販売
8日	朝 日	青梅市議会が「美しい風景を育む条例」を可決
9日	讀 賣	9,000億円の羽田空港再拡張事業が始動
12日	朝 日	11日の参院本会議で「景観法案」が可決、成立
13日	毎 日	神奈川・愛川町でアメンボの保護の為に道路計画を敢えて変更
15日	朝 日	雑木林の再生と有効活用で、「DAIGO どんぐり銀行」を八王子の団体が発足
22日	讀 賣	国分寺崖線の保全で、「街づくり条例」を国分寺市議会が可決
23日	神奈川	横浜市と市の水源のある道志村とが友好・交流協定を締結
24日	神奈川	川崎市宮前区の平瀬川で絶滅危惧種「ホトケドジョウ」の生存を確認
7月 1日	朝 日	府中市の水と緑のネットワークまちづくりを国の地域再生計画に認定
3日	神奈川	丹沢・大山地域のシカ食害は23ha、2,000万円に—県緑政課が調査
4日	讀 賣	多摩川源流部でのシカ食害が急増—山の一部が砂漠化
6日	神奈川	多摩川流域ネットワーク設立—多摩川の保全と交流を促進
8日	讀 賣	空梅雨で空堀川が水枯れ—魚が絶え、水鳥の行き場が喪失
9日	神奈川	川崎市内の多摩川水系には約200ヶ所の湧水があることが判明—川崎市の調査で
17日	毎 日	多摩川を見直そう—大田区立郷土博物館が企画展を開催
19日	朝 日	浅川に親しむ集い—浅川サバイバルレースに125組、550人が参加
21日	朝 日	川崎、横浜、町田にまたがる800haの緑地を3市協力して保全へ
23日	朝 日	小魚の泳ぎ、緑の藻がゆらぐ姿が戻る—地下水の導引で立会川が元気に
24日	日 経	多摩川・狛江の水辺の楽校で“川ガキ”の歓声—蘇えるリバーライフ
30日	毎 日	東京の水は甘いぞ—都水道局が水道水をボトルにつめた「東京水」を無料配布
30日	毎 日	小平市が「こだいらグリーンロード21km」を発行—玉川上水などの散策用に
30日	朝 日	身近な用水路や小川を憩いの場—東京市町村自治調査会が多摩の水辺再生で提案

- 8月 2日 朝 日 シカ食害が進む川乗山で、豪雨により山の斜面が崩落一町営水道に影響
5日 神奈川 丹沢の主(ぬし)・奥野さんが丹沢保存会に4万点の丹沢の山岳資料を寄贈
7日 神奈川 国交省が3年に1度実施する河川水辺の国勢調査—多摩川は全国第4位の人気者
7日 朝 日 真姿湧水群(国分寺市)近隣に建設中のマンション訴訟で裁判長が現地を視察
12日 日 経 都が都心の貴重な自然空間の活用促進をめざす「神田川再生構想」を策定
- 9月 2日 毎 日 ダイオキシンは大丈夫—多摩川河口の江戸前の魚介類の安全性調査
5日 毎 日 薪焼きピザが雑木林を救う?—1ha以上の雑木林の保全はビジネスがらみで
5日 朝 日 日野市内の用水(縦延長170キロ)を1冊の資料に一立川の小学校の先生
7日 朝日夕 杉並と武蔵野で集めた約2千種の昆虫標本10万点を東大に寄贈—須田さん
8日 神奈川 熱帯や亜熱帯の海域に棲むウシエビやウミウシを東京湾で発見
9日 讀 賣 江東区と墨田区境を流れる横十間川のダイオキシンは基準の127倍
16日 讀 賣 福生市は2年がかりで約15,000m²の雑木林「原ヶ谷戸緑地」を保全へ
22日 讀 賣 日野市の「多摩生きもの学習研究会」が多摩の自然を学べる指導者用教本を発行
23日 毎 日 奥多摩地区のシカ食害で土砂流出など一事態は深刻化
23日 日 経 都内13ヶ所の水再生センターで下水汚泥焼却を高温化、温暖化ガスの抑制へ
28日 神奈川 倒産寸前の「かながわ森林づくり公社」の再建を委員会方式で検討へ
28日 朝 日 昭島市が古資料を基に井戸2基を復元—水の大切さを子供たちにアピール
30日 朝 日 小平市の国立精神・神経センター武蔵病院の井戸水から基準を越す砒素を検出
30日 朝 日 国分寺の市民文化会館建設地から基準の20倍の鉛が一建設を一時凍結へ
- 10月 1日 讀 賣 町田市が鶴見川、境川の源流域35.8haを保全目的で取得へ
3日 神奈川 源流は国民の共有財産—第5回全国源流シンポジウムを東京農大で開催
5日 讀 賣 10月から青梅市で「美しい風景を育む条例」を施行
5日 朝 日 市内の用水や多摩川を活かした景観づくりのワークショップを府中市が開催
9日 讀 賣 ニホンジカによる食害が進行—奥多摩・川乗山では山肌が露出
14日 朝・讀 羽村市内の玉川上水沿いの都道改良工事に反対—歴史的景観の保全を理由に有志が立ち上がる
15日 毎 日 絶滅危惧種のカワラノギクのが開花—羽村の多摩川河原で鑑賞会
16日 讀 賣 北浅川、大沢川など市内の河川の汚れ具合を調べる活動を展開—エコネットワーク八王子
23日 讀 賣 八王子市内の小中高校生が共同で浅川の研究を開始—浅川プロジェクト
27日 毎・朝 奥多摩のシカ食害がさらに拡大—都が全域調査の実施へ(27日 讀賣夕)
27日 讀賣夕 国立市のマンション訴訟で2審判決—景観利益は認めないとの判断(28日 毎日、朝日)
29日 讀 賣 国立市の景観訴訟—司法は景観保全の判断では消極的
30日 神奈川 丹沢北西部で森林再生、林業再興を目指した官民ネットが発足
- 11月 1日 神奈川 川崎市多摩区の生田緑地(総面積29ha)の保全を考えるイベントを開催
1日 讀 賣 台風23号で6年ぶりに池が復活—東久留米市の黒目川の源流・さいかち窪
6日 神奈川 全国棚田サミットが10年目へ—小金井のミュージカル劇団が言い出しっぺ
9日 毎 日 立川市と隣接8市首長がサミットを開催—ゴミ問題など環境も視野に広域連携を模索
(10日 讀賣)
14日 朝 日 高度浄水処理水をペットボトルに詰めた「東京水」を都が販売(27日 毎日)
16日 朝 日 シカ食害すすみ、山が砂漠化—奥多摩・川乗山の35haで斜面が崩落(27日 讀賣夕)
17日 神奈川 丹沢で有益なダニの激減やカタツムリの消失などの現象が発生—生命の星地球博物館長
18日 毎 日 目黒、世田谷、多摩など20市区に給水する朝霞浄水場に高度処理施設が完成
22日 讀 賣 多摩川水系の流域環境を学ぶ多摩川水流実態説明キャラバンが残堀川を探索
- 12月 2日 讀 賣 府中市が条例を制定—工業/準工業地区での景観保全とマンション建設紛争を事前防止
3日 讀 賣 福生市内で途切れる玉川上水沿いの遊歩道をつなげ!!—2.1kmをつなげ、全長31kmの
歩道の完成を(14日 讀賣)
7日 神奈川 国交省が新に全国河川のフレッシュ度の指標(河川の水利用度を示すもの)を設定
—多摩川は36%、しかし、鶴見川は22%で最下位から2番目
7日 日 経 世田谷区は国分寺崖線の緑の保全で、傾斜地でのマンション建設を規制へ
8日 神奈川 県の水がめ丹沢山地の荒廃が深刻—シカ食害でブナ林の荒廃がすすむ
11日 讀 賣 清瀬市が緑地保全を目的に発行するミニ公募債「みどり債」が大人気
13日 毎日夕 森を放置してきたツケか—奥多摩、丹沢で山が裸に
15日 讀 賣 南浅川河川敷の花壇は違法—河川敷の過度の活用に都が八王子市に対し警鐘
16日 讀 賣 中村文明多摩川源流研究所所長が「源流絵図・奥多摩版」を完成
16日 毎 日 都が進める「安全で美味しい水プロジェクト」の達成は9年後?
18日 讀 賣 五日市高校生100人が山仕事を通して森林が地球環境に果たす役割りを学ぶ
18日 讀 賣 東久留米市柳窪地区の雑木林、小川、古民家などの“武蔵野のふぜい”の保全を
20日 毎 日 景観法施行—里山の保全、景観に配慮した整備が可能に
22日 毎 日 小金井市立南中自然科学部作成の野川流域の昆虫などを対象にした図鑑が受賞
26日 神奈川 全国で3番目に古い秦野水道の水源が40年ぶりに復活
26日 朝 日 人とシカの共存をめざして—丹沢地区でシカの生息調査
27日 神奈川 相模原市の用水路で護岸工事—ホタルの名所では機械工事から手作業に

6 多摩川流域で活動しているNPO法人、任意団体等一覧

多摩川流域には環境保全等で活動している団体（NPO法人、任意団体等）が200以上あると言われていています。当財団で研究助成した団体、本誌（財団だより「多摩川」）を送付している団体等、当財団と関係が深いと思われる団体をご紹介します。

NPO法人・任意団体名	U R L
NPO法人 多摩川センター	http://www2.ttcn.ne.jp/~tamagawa/home/home.html
NPO法人 多摩川エコミュージアム	http://www.seseragikan.com/
NPO法人 海辺つくり研究会	http://homepage2.nifty.com/umibeken/
NPO法人 グリーンネックレス	http://www.green-necklace.org/
NPO法人 森づくりフォーラム	http://www.moridukuri.jp/top_event.htm
NPO法人 環境学習研究会	http://www.ecok.jp/
(財)たましん地域文化財団	http://www.tamashin.or.jp/
(財)せたがやトラスト協会	http://www.setagayatrust.or.jp/
(財)東京都市町村自治調査会	http://www.tama-100.or.jp/tama/index.html
多摩川源流研究所	http://www.tamagawagenryu.net/
東京都奥多摩ビジターセンター	http://www.nats.jeef.or.jp/i/ntr/1301.html
多摩川流域リバーミュージアム	http://www.tamariver.net/index.htm
みずとみどり研究会	http://www.geocities.co.jp/NatureLand/3029/index.html
多摩川と語る会	http://www.smnpo.gr.jp/npodata/kanto/kt16.html
狛江水辺の楽校	http://www6.ocn.ne.jp/~yamaguri/
とどろき水辺の楽校	http://www001.upp.so-net.ne.jp/motoori/mizube/top.html
かわさき水辺の楽校	http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/tama/study/school/kawasaki.htm
あきしま水辺の楽校	http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/tama/study/school/akishima.htm
多摩川癒しの会	http://home.m03.itscom.net/iyashi/right2.htm
多摩川・リバーシップの会	http://b-flag.com/river-ship/index_up.html
多摩川の自然を守る会	http://homepage2.nifty.com/tamagawa/index.html
多摩川サケの会	http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/2024/act.html
多摩川環境研究会	http://www.nposhien.net/org/view.cgi?0002
浅川勉強会	http://www.c-hino.org/group/18/18.html
ATT流域研究所	http://kankyou1.hp.infoseek.co.jp/att/
実践生物教育研究会	http://www004.upp.so-net.ne.jp/jissen/
八王子カワセミ会	http://kawasemi.fan-site.net/top.html
西多摩自然フォーラム	http://www.ntforum.org/index.html
ラブリバー多摩川を愛する会	http://loveriver.ne.jp/
玉川上水ネット	http://www.parkcity.ne.jp/~tama-net/
せたがやグリーンマップ	http://sgmap.org/
三鷹環境市民連	http://www.parkcity.ne.jp/~siminren/index.htm



「日向和田の梅」

画家
新井 秀一郎
あらい しゅういちろう

大正13年生まれ
東京美術学校師範科卒業
文部大臣奨励賞
光陽会会長賞 等 受賞
光陽会委員 小平市在住

ご協力：財団法人 たましん地域文化財団

▶ 当財団の概要 (2004年12月31日現在)

設立	1974年8月28日
特定公益増進法人認定	1974年9月24日
主務官庁	(2004年11月更新) 経済産業省
基本財産	974百万円
財源	基本財産等の運用収入、助成金並びに寄付金
事業内容	・研究助成事業
1 研究助成	総助成件数 442件 総助成金額 1,163百万円
2 学習支援など	副読本制作配布 187千部 データブック配布 5千部
印刷刊行物	研究助成成果報告書学術編 研究助成成果報告書一般編 財団だより(季刊) 2,700部 環境副読本(毎年) 10,000部
助成研究選考委員会委員長	高橋 裕 東京大学名誉教授(河川工学専攻)

▶ 役員・評議員

(敬称略50音順)

[会長]	清水 仁	東京急行電鉄株式会社 取締役会長
[理事長]	五島 哲	東京急行電鉄株式会社 取締役調査役
[理事]	安藝 亮	東急不動産株式会社 取締役相談役
	飯田 興	セコム株式会社 取締役最高顧問
	稲葉 誠	日本商工会議所 名誉会頭
	北中 信一	小田急電鉄株式会社 取締役相談役
	鯉 一	亜細亜大学 前学長
	小長 啓一	AOCホールディングス株式会社 相談役
	通沼 孝	学校法人 五島育英会 前顧問
	小井 博之	第一生命保険相互会社 取締役相談役
	戸田 廣一	西武鉄道株式会社 元取締役社長
	西山 朗	京王電鉄株式会社 相談役
	平松 一	京浜急行電鉄株式会社 取締役相談役
	堀川 清	武蔵工業大学 前学長
[常務理事]	長井 弘道	(財)とうきゅう環境浄化財団事務局長
[監事]	中川 幸次	財団法人 世界平和研究所 副会長
	宮崎 繁忠	東京急行電鉄株式会社 前常勤監査役
[評議員]	秋山 國壽	学校法人 五島育英会 前理事長
	井原 芳隆	東急建設株式会社 特別顧問
	今泉 正隆	財団法人 警察協会 会長
	上條 清文	東京急行電鉄株式会社 取締役社長
	塚孝 夫	東横学園女子短期大学 学長
	佐藤 朋佑	川崎商工会議所 前会頭
	室有 志	株式会社 日立製作所 特命顧問
	原三代平	財団法人 統計研究会 会長
	蛇川 忠暉	日野自動車株式会社 取締役会長
	高梨 昌芳	横浜商工会議所 会頭
	高橋 裕	東京大学 名誉教授
	高福 春	株式会社資生堂 名誉会長
	水田 寛和	株式会社 東急百貨店 取締役社長

- 発行日 平成17年3月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03)3400-9142
FAX (03)3400-9141
ホームページ <http://home.q07.itscom.net/tokyuenv>

